



園芸作物栽培についての

これからの対策

と Q&A

**寒候期の天気予報**  
気象庁は向こう3か月の気温・降水量の予想についてはほぼ平年並みとしています。直近1ヶ月は低温、曇日照で雪は早いと予想しています。

**◎圃場の管理**  
秋野菜の収穫も終わりつつありますが、野菜残渣などは圃場に放置せずに圃場外に持ち出し、圃場をきれいしておく必要があります。ことに丹南地域の土壌は粘土質で排水不良の圃場が多いので、積雪前までに排水路の雑草、ゴミなどを取り去って余剰水がスムーズに排出されるようにしておきましょう。

**◎越冬前の野菜管理**

越冬作物は冬の間しっかりと根を張って、春に備える時期です。したがって圃場排水を万全にして根が伸びやすい環境を整えておきましょう。  
追肥の問い合わせがありますが、元肥を施用してはいれば年内の追肥は必要はありません。霜が予想される前日の夕方には、寒冷紗などのベタ掛けすること、葉の傷みを回避することができます。また、12月に入ったら茎葉の傷みを軽減し根を保護するため敷きワラを行ってください。

**◎タマネギの管理**

タマネギは圃場の排水を万全にしておきましょう。苗が残るか消えるかのポイントは大さきではなく圃場の排水の良さ悪しにありまします。その他、深植え、老化苗、窒素主体の肥料の多施用などによっても腐りが発生します。前々年度は分球やトウ立ちがよく見られましたが、これはもともとタマネギが持っている性質で、早植えしたり、追肥を過剰にしたり、大きな苗を植えたりしたことが大きな要因です。

疫病やべと病の予防として、展着剤を加用したダコニール1000もしくはジマンドイオンを散布しておきましょう。

**◎エンドウの管理**

エンドウは直根が発達しますので、水はけ、日当たりの良い所で、北風の吹きさらしとならない所がよいので、圃場排水を良くし、風除けを考えておきましょう。

**◎芋類の保管**

サツマイモやサトイモの保管について、元より家庭では専用の保蔵庫はないので、腐るといふリスクは必ずあります。家庭でできる方法としてはイモは収穫後、洗わずに天日で充分乾燥させます。サトイモは株のまま保存とし充分乾かしてからダンボール箱の中に入れモミガラを敷き詰め、通気性のないビニール袋や発泡スチロール箱は使わないでください。保管は居間や台所の冷蔵庫の上などできるだけ暖かい場所を確保してください。

光合成を行い自ら栄養を作り出しています。ですから肥料だけ過剰に与えてもかえって害が出るだけとなってしまいます。肥料も少量ずつマメに施用することが望まれます。尿素や硫酸など窒素成分の高い肥料を多用するとかえって根が傷み養分の吸収が悪くなり作物体が軟弱に育って病害虫の被害を受けやすくなったりします。

**有機質肥料**

有機質肥料は、微生物によって分解されて初めて肥効が現れる緩効性肥料で、一般に元肥として利用されますが、分解速度が地温によって大きく左右されるので、作物施肥時期によって注意が必要です。冬季は肥効が現れるのに10日〜20日以上かかり、その後も非常に緩慢です。夏季は分解が速くなるので追肥としても利用できます。

**無機質肥料(化学肥料)**

速効性から緩効性、肥効調節型など多くの種類があり、剤形も様々です。三要素のバランスも自由に設計できるので、野菜の肥料吸収特性に合った製品があります。使用場面も、元肥と追肥から葉面散布までハリエターに富んでいます。ただし、化学肥料のみで頼ると、土壌中の有機物が減って団粒構造が崩れてきたり、菌層が貧弱になったりするなど地力が落ちてしまいます。

**◎植栽密度**

植え込み過ぎは作物の生育を悪くします。ウリ類やダイコン、ハクサイ、キャベツなど秋野菜やホウレンソウ、コマツナなど軟弱野菜は密植の傾向が見られます。密植により株間の通風採光が悪くなり軟弱弱味に育ち、また防除薬剤も届きにくくなることにより病害虫が蔓延します。

**◎病害虫の多発生**

近年の温暖化と集中豪雨的な雨の降り方が菜園の管理にも大きな影響を及ぼしてきています。また、温暖化の進行により温度と湿度が高くなってきており病害虫が繁殖しやすい状況となります。今年も春先からネコブ病、サビ病、べと病、ウドンコ病、灰色カビ病などが多発しましたが特にアブラナ科野菜のネコブ病の発生は今後の蔓延が懸念されます。害虫ではアブラムシ、コナジラミ、ハダニ類、キスジノミハムシ、ハマシ類、ネキリムシ、アオムシ、ヨトウムシなど多くの害虫が発生しました。特にネキリムシとハマシ類の被害が年々増加してきており、土壌処理剤等の施用が必須となってきました。

圃場見廻りでは早期発見に心がけ、病害虫が蔓延する前に早期防除・予防散布を徹底することが肝要です。特に播種・定植直後の幼苗期の被害はその後の生育に大きな影響を与えます。なお、土壌処理剤と植穴処理剤の薬剤の選択ミスや使用法の間違いが目立ち、初期の効果が得られていない事例が見受けられます。土壌処理剤と植穴処理剤を整理しましたので参考にしてください。

**◎果樹の剪定と管理**

落葉果樹は今月から3月初めの萌芽までの間が剪定の時期です。石灰硫黄合剤は

かな場所に置きます。

**「種バレイシヨの保管」**

来春の種バレイシヨは、入手したら箱から出して腐り手などが広がらないか点検します。バレイシヨはマイナス3℃〜マイナス4℃以下の温度に遭遇しなければ大丈夫なので人の生活している屋内においておきます。

**◎今年の反省**

今年も多くの菜園に関する相談がありました。相談の多くは、適切な土壌管理と適正な施肥が行われていなければ問題とならないような内容でしたので、ここで、もう一度確認していただようお願いします。

**①播種育苗**

種の発芽不良によるトラブルは少なくありません。原因として最も多いのは播種位置が深い、または覆土が厚すぎることです。播種位置が適当でも水やりが不規則で発芽直後の乾湿の差が激しかったり、土壌雑菌が多かったりして発芽直後に幼芽や幼根が侵されてしまいます。夏場は直射日光による高温障害等も見られますので注意が必要です。

**②土壌について**

野菜の根が好む土壌は空気層が多く透水性の高い軟らかな土壌です。そして根の伸びの深さ、作土深が充分あることです。それと微生物が多く活発で、土壌が病原菌に汚染されていないことです。近年は、機械での耕耘が多くなり、見た目より浅耕化しています。

**③土づくり**

完熟堆肥を入れましょう。畑に入れる堆肥は完熟していることが重要です。完熟堆肥は作物には障害を与えません。未熟な堆肥を畑にいれると細菌や糸状菌が急激に増え、その呼吸ガスや代謝産物が作物の根に障害を与えます。未熟な堆肥を使用する場合は相当早めに畑に入れて分解を促します。

**④畝立てと排水**

生育具合は根張りの具合によって変わります。根の張りは作土深によって変わります。たんなん管内の土壌は重粘土質で排水が良くありませんので土壌表面の排水を徹底することも畝上げの作業においては30cm位の畝を作る気持ちで作業してください。

**⑤施肥について**

家庭菜園では生育が悪いと肥料を多く与えがちですが、これは間違っています。植物は肥料(養分)と水を吸収し、空気中から二酸化炭素を取り入れ葉で太陽光を受け

葉のないこの時期に散布します。太い枝などを切り落とし、場合によっては、切り口にトップジンMPペーストなどを塗り込んでおく、枯れ込み防止になります。

剪定は、成り過ぎを防ぎ、日当たりを良くすることで着果が安定し品質も向上します。

- ①果樹は品種により着果習性が違いウメやモモ、スモモなどは前年伸びた枝に実が着くので新しく伸びた枝を切り過ぎは避けません。カキ、イチジク、ブドウなどは剪定後に伸びた新しい枝に実が着きます。基本的な剪定方法としては、①風通しが悪いと病害虫が発生しやすくなるので、混み合った部分や交差した枝を切り落とす。
- ②木の内側に向かって伸びている枝を切り落とす。
- ③長く伸びた枝は半分位に切り詰める。

施肥は11月下旬から12月上旬が元肥の施用時期です。施肥量は果樹の大きさや種類によって異なります。年間施肥量のうち、この時期に元肥で約半量、果実の肥大期の実肥と収穫後のお礼肥で4分の1ずつ位与えます。元肥は根が休む落葉後に有機物を主体に施用し土壌混和しておきましょう。



溝の排水を考えないと、畝間に滞水しやすい。  
育苗むら。水遣りでもバラツキを助長しやすい。  
ウリハムシは山間部では飛来害虫の被害が多い。  
ネコブ病は排水不良地で蔓延しやすい。耕運機で拡がる危険がある。  
近年発生が多いサビ病。4月からの予防散布が大勢。  
ナスのウドンコ病。多くの作物に発生する。防除困難である。  
ネキリムシは茎を食い倒すので日が甚大である。  
ヨトウムシは老齢幼虫になると暴食し数日で被害が急拡大する。  
ダニは高温乾燥を好み、夏場は10日ほどで孵化してくる。  
果樹のカイガラムシは防除困難。5〜6月に薬剤散布する。  
土壌水分が高いと発生が多くなる根朽病。  
施肥のやり過ぎはかえって生育を阻害する。

土壌処理剤(全面又は作条混和)		
ダイアジン粒剤5	フォース粒剤	ネキリムシ、タネバエ
カルホス微粒剤F	バダン粒剤4	ネキリムシなど
ネビジン粉剤	フロンスイト粉剤	ネコブ病
植穴処理剤(株元散布)		
スタークル粒剤	モスピラン粒剤	アブラムシ、コナジラミ
ダントツ粒剤	アドマイヤー1粒剤	アオムシ、ヨトウムシなど
プレバノン粒剤	ジェイエース粒剤	
ベストガード粒剤		

大門 優  
園芸アドバイザー  
お問合せ先  
東部ふれあいセンター内営農生活課  
TEL.51-8004  
TEL.070-1296-1499